

商業科「ビジネス基礎（2単位）」学習指導案

愛知県立〇〇商業高等学校

指導者 教諭 〇〇 〇〇

- 1 日時 令和4年10月19日（水）第5限目13時30分から14時20分まで
- 2 場所 1-1教室（教室棟〇階）
- 3 学年・組 1年1組38名（うち外国人選抜〇名）
- 4 教材・教具 教科書：「ビジネス基礎（実教出版）」  
副教材：「事例探究ワークブック ビジネス編（実教出版）」  
その他：ワークシート（自己評価表を含む）、タブレット端末

5 単元計画

(1) 単元名 「4章 さまざまなビジネス」

(2) 概要（目標）

何ができるようになるのか	
経済の基本概念、流通の基本概念、流通の役割など経済と流通に関する知識を基盤として、科学的な根拠に基づいて、流通と流通を支える活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようになる。	
何を学ぶのか	どのように学ぶのか
物流活動、金融及び保険の働きや仕組みについて学ぶ。合理的な物流管理や円滑なサービスの提供を可能にしている情報システムの概要について学ぶ。	ワークシートに取り組み、その成果を基にグループでより議論を深め、グループの結論を導き出す。

(3) 評価規準

【A】知識・技術	【B】思考・判断・表現	【C】主体的に学習に取り組む態度
経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解している。	経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。	経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(4) 指導及び評価計画

指導時間 本時	各時間の指導内容	重点評価 記録に残す評価	評価方法 (※Bの基準)
1	ビジネスの種類	【A】	確認テスト
2	小売業	【B】	ワークシート ※小売業のチェーン化について説明できる。
3	卸売業、物流業	【A】	確認テスト
4	金融業	【A】	確認テスト
5	情報通信業 パフォーマンス課題	【B】  【C】	ワークシート ※テーマに沿う形で自分の考えを述べることができる。 グループワーク
6	パフォーマンス課題	【B】 【A】	ワークシート 単元確認テスト ※20点満点中10～16点

6 本時の学習

(1) 学習内容

指導内容	第6節 情報通信業
学習内容	パフォーマンス課題により、情報通信業の発展と未来について考えを深める。

(2) 概要 (目標)

情報通信業についての基本的な知識を習得する。また、これまで学習した授業内容を活用し、ビジネスの場面を想定する中で、他者との協働を通して、より深く考える力を養うとともに、組織の一員として責任をもって取り組む態度を習得する。

(3) 授業展開

(○…「記録に残す評価」、●…「指導に生かす評価」)

段階	時間	学習内容	学習活動	観点	評価	指導の留意点
						評価のポイント
導入	5	・本時の目標確認	・ループリックに目を通し、評価基準を確認する。			・重視すべき観点を明確にすることで、生徒の学習意欲、学習効果を高める。
展開	10	・ワークシート	・情報通信業のこれまでを振り返り、各時代区分の特徴を理解する。 ・スマートフォンの普及状況を確認する。			・新しい発見や疑問等は、ワークシートの余白にメモを残すよう強調する。
	10	・個人学習	・スマートフォンの普及により、市場規模に影響があった商品やサービスについて仮説を立てる (ワーク①)。 ・スマートフォンの新しい価値について想像する (ワーク②)。	【B】	○	・スマートフォンの機能を思考の起点として論理的な仮説を立てるよう強調する。 ・スマートフォンそのものだけでなく、周辺で利用されるものも含めて考えるように意識させる。
	20	・グループ内発表	・個人学習の結果をメンバーと共有する。 ・他のメンバーの意見を聞き、自分の仮説と比較する。 ・これからのスマートフォンについて想像する (ワーク③)。	【C】	●	・タイマーを提示し、時間配分に留意させる。 ・全員が協働して話し合いに参加しているか、机間指導中に声掛けを行い、積極的に話し合いに参加することを意識させる。
まとめ	5	・本時のまとめ	・ループリックに自己評価を記入し、授業を通して学んだことを記述する。 ・授業後アンケートに取り組み、集団への貢献の意義を考える。			・学習の取組について振り返らせ、ワークシートの記入状況を机間指導の中で確認する。 ・自分の意見を積極的に伝えようとすることや、周りが意見を伝えやすい環境を構築することの大切さを伝える。

(4) 学習支援 (評価Cへの手だて)

Cと判断する具体的状況	個人学習において、仮説を立てることができない。
学習支援の具体的内容	設問の意味が理解できているかを確認する。

7 授業実践報告

(1) 生徒が主体的に学習に取り組むための工夫

ア 自分たちの身近にあるスマートフォンを通して、ICT機器の発展の歴史や情報通信業への興味・関心を高めるための内容を選び、仮説を立てるための練習を行った。

イ 正解のない問いを設定することで、自分の考えを周囲に伝えたり、周囲の人の意見を受け止めたり、コミュニケーション能力の基礎となる生徒同士の対話が活発に行われることに力を入れた。

(2) 授業の様子

ア 現在の高校1年生は、デジタルネイティブにあたる世代であるため、スマートフォン普及以前の生活様式を経験していない。市場規模が縮小した商品やサービスについて仮説を立てることが

難しかったようである（写真1）。

イ 平易な表現を心がけ伝えたが、設問の意味が正確に伝わらない生徒には、机間指導時に補足を行った（写真2）。



（写真1）



（写真2）

### (3)まとめ

上記の指導内容を1時間で実施するには時間的に無理があった。ワーク①を全体での取組にし、ワーク②をグループワークの中心に変更するなど内容を減らす必要があると感じた。

該当クラスで今回のようなパフォーマンス課題を実施したのは初めてである。言語の壁が存在するため、問いの意味を理解できない生徒へのその場での対応が課題である。日本語を母国語としない生徒には、事前に十分な準備時間を与えられるような課題、シンプルな問いの設定などの工夫が必要である。生徒同士の対話では、タブレット端末で翻訳機能を利用したり、単語でやり取りしたり、何となく対話が成立していて安心した。

グループは、メンバーのみを指定し、事前に役割分担をしなかったが、自然発生的にそれぞれのグループにリーダー的な生徒が生まれていた。生徒への指示を減らし、そのまましておくのは心配であるが、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教員側の意識変革が求められていると思う。